



秋寿光觀



梅 花 畫 描



生先郎三初田吉の中筆執紙色の花梅に室畫江蘇の春新

初だより二信

赤穂御崎にて 大野内記

大阪の酒の御正月を避け、貴下の案内圖を手にして此地に参り候。偶々對陽館別館に於て、貴下の

さくら散るおぼる月夜や ふと悲しの句を見て思ひを蘇江書室によせ、遙るかに敬意を表し居候。益々御多幸なる年を迎へられたるを喜び居候。本年は一度拜顔致し度し……。

三菱神戸造船所 神田忠雄

謹賀新年

拜啓 久しく御無音に打過ぎ申候。御一統様益々御清榮奉賀候。小生儀昨年六月發、シベリヤ經由、モスコ、ワルソーを見て伯林着、諾威主都オスロに約壹ヶ月滞在、瑞典ストックホルム、ゴッテベルグを見、丁抹コーペーヘーゲンを経て再度伯林に滞在、ブラッセル、アムステルダム、ロツテルダムを見て倫敦に行き、英國の造船所を見て巴里から瑞西のベルン市、アルプス、ローマ、ナポリ、フロレンツ、ゲノア、ミラノ等に船と美術を見て巴里から飛行機で倫敦に歸り、米國經由で昨年末歸朝致候。其後特種船の計畫に多忙を極め非常に御無沙汰仕候。皆々様に於かれても御多忙中御旅行の由、奉大慶存候。御無音御詫勞々御挨拶迄申上候。頓首

註曰—大野内記氏は大阪在住の醫學博士、神田忠雄氏は三菱神戸造船所の技師、共に當方新充會の會員で、何れも吉田初三先生に當てられた年賀状であります。



早春の夜

(散文詩)

千家元麿

Nと云ふ友と小田原から、伊豆山へ山越しをして居た。小田原を夕方發して自分達は青春の血氣にまかせ、徒歩して夜間の山中を急いだ。

冬枯の山の中はもう夜は臙ろめいて、そこらの雑木の一群の茂みや葎が、どこから射すのか、ほのかな明りにぼつと霞んで、山も海も、しんと冴へ返つてゐた。斷崖の下の方では海の響きに和して、時々崖の崩れる石の轉落する音が、靜寂を破つた。覗いて見ると、漁火かと思はれる光りがすぐ眼下に搖れてゐたが、それは星が波に映つてゐるのであつた。

「星だよ、星だよ」と二人は驚き合つて空を見上げると、乳白に冴へ返つた空に睡たさうな星が艶に輝いて居た。

二人は疲れて路傍の枯草に腰を下ろし、煙草を喫つた。煙草の火がほんのり指の先に紅くおぼろに見へた。

「もう春もちきだな」と思つた。日當りのいゝ温い半島の山ふところの畠には豆の花が咲き、梅も蓄んで、一輪二輪は綻びてゐたりした。

二人はしんとした山と海と空に抱れてうつとりして居た。萬物がこんな穩やかな和やかな夜、空では睡さうな星が、時々眼を覺ますやうに身じろきする。悠久と云ふ感じが胸に迫つて來た。泪ぐみたいやうな甘い感情が、胸に湧き、それは若者にのみ與へられた至純な感動で、思はずも神に祈りたいやうな、幸福で幸福でたまらない感じであつた。卑しい影のさゝない、崇高な情熱で二人は黙々として、亦、冴へ返る白い山中と思へない立派な道路を荷をかついで足を速めて行つた。

觀春光秋

不

景氣だ、金解禁だ、議會開散だ、總選挙だ、と、錫牛角上の争ひを横目に、平和を愛好する國「日本」は斷然世界へ進出してゐる。今時何を苦しんで、民政黨だ、政友會だ、と騒ぐのか？ 言ふ者には言はしておいて、國民は今少し冷靜に、對外的日本の地位を凝視し、監督し、鞭撻し、向上せしむべきではなからうか。對内的政治シーゾンを控えて此の感持に切なるものがある。

既に藝術の國日本は横山大觀氏等によつて伊太利に紹介せられ、平和の國日本は若槻財部松平三氏によつて英國に宣揚せられ、風景の國日本はツリスストビエロー鐵道省其他の共同宣傳によつて、アメリカに向つて第一矢が放たれてゐる。昭和四年十月以降に於ける對米宣傳費二十萬圓は雜誌廣告費十六萬圓、宣傳用印刷物二萬圓、展覽會映畫其他二萬圓といふ内譯を示して、米國十六大雜誌の誌上には夫々一頁乃至半頁廣告となつて現れ

“DELIGHTFUL JAPAN”

The World's Greatest Vacation-land

といふやうなスローガンが大きく掲載せられてゐることを、對内的錫牛角上の争ひに夢中になつてゐる國民は風馬牛の態度で、我不關焉と知らぬが佛を極めこむつもりか？ 夫れは餘りに郷土日本を愛せぬといふものである。

對外的に目醒めてくれ日本人よ！

× されば風景の國日本を全世界に進出せしむべく、去る一月十七日、帝國交通界の主腦者が集まり、東京ジヤパンツーリストビローで論議せられた會議の結果は、別項で報導せし如く、果然重大な使命が我が、吉田初三郎先生の麗筆に託せられ、

平穩の八湯

スキーといでゆ (三)

眞琴清之助

(五) 發咄温泉其他

前號で平穩八湯の布置と交通、上林温泉と其の名所に就いて略々其の概略を御傳へしておいた。以下残りの七湯に就いて簡単な説明を試みるとせよう。

上林温泉から發咄温泉への三里、路は少々険しいが夫れだけに見る所も甚だ多い。婦人連でも足こしらへさへすれば樂にゆける。雪の季節なれば無論スキーによること、初心者でも此處を往復すれば、やゝ一人前になれること請合だといふ。

上林の丘の麓から草津街道を辿ること三四町で、舊着たる「龍王ヶ森」に入る。そこからま上の長野電燈第一發電所まで一氣に登りつめると、いよいよ「波坂」の峠で、電光形の急

坂が、暫らく上へくと續いてゐるが、是さへ越して下へば後は樂なもの、登りつめた所が「坊平スキー場」で、既に白樺が美しい幹を見せはじめ、つゞじ、鈴蘭が亂れ咲くといふ爽快な高原氣分に一轉する。そして此處には「香打茶屋」といふのがあつて、名物の阿倍川「いくよ餅」を賣いでゐる。風味は遠に地獄茶屋の笹餅を凌駕するものがあるが、残念ながら美人がゐない。是れだけは訪問者にお氣の毒である。

此處から遙かの溪谷に直下四十丈の素練を曳いた「淵瀧瀧」を見物し、スキーの名所である。秩父兩宮殿下、竹田宮殿下御登臨の記念地である。「旭山」に登れば、ま下に「琵琶地」の麗湖が、美しい白樺の樹林に飾られて、清澄無比なエメラルドの色を湛えてゐる。

遊園地として、其の開發と發展を大いに期待すべき所である。其の湖畔から左へ一里あまり、見事な溪谷美の山道なだると若もなく發咄温泉の人となる。何れもゆるゆるとした大きな構へを山の中腹の一段小高い丘の上に建て連れて、山峽から望むと立派な温泉街を形造つてゐるやうだ。此處からは往復五里で、東アルプス中第一の峻山といはれる「岩管山」(標高七五七四尺)の山頂を極めることも出来るし、其の途中の「高天ヶ原」は有名なスキー場、又琵琶池湖畔に引返して八湯の「熊の湯」までは二里、名高い上州の「草津温泉」までは四里、途中廣業先生の推薦して止まず、賑々畫題とせられた「暮岩」の奇勝、「暮岩瀧」の景趣を友として愉快な旅をつづけることも出来る。殊に岩管山は、秩父兩宮殿下並に竹田宮殿下の御登攀を拜して一層有名になつた。上林へ來て一兩日の暇のある方は、是非此の山めぐりといでゆめぐりを致行せらるべきであらう。

「熊の湯」に就いては、前號で前田氏がその浮世放れた光景をいと詳細に述べられてゐるから、此處では失敬して、さて「遊」(安代)、「湯田中」は、既に完成せられた温泉街、夫々に立派な大湯や共同浴場を幾つも持ち、堂々たる内湯旅館が軒をならべて二里に餘る山徑に美事な湯町をつらねたきらびやかなもの、山と川とに挟まれた閑寂な氣分と、泉都別府を壓縮したやうな絢爛たる情緒に彩られた溫柔郷で、中にも遙は平穩八湯中最古の温泉で(發見以來一千二百年と傳ふ)湯町も旅宿も一番よく整ひ、又湯田中には、櫻樹に飾られた遊廓もあつて、越後系統の美女の数々、御所望次第いづれも席に侍入りつて、平穩小唄、信濃ぶし、須坂小唄、中野小唄、川中島音頭、等数々の民謡やら踊りやらをお目にかけ、冬にはスキー藝者の一團も出現せようといふ温泉情緒をいやはや上にもこまやかにらしめてゐる所である。(つづく)

寫眞は「長野電鐵沿線・平穩温泉地帯大鳥瞰圖」執筆中の吉田初三郎先生。



櫻咲く美の國「日本」のポスターは、遙かに海を越えて、歐米の天地に其の第一聲を放たんとしてゐる。

而し坊間説をなすものあり、外客誘致は國民をして宿引根性に化する虞あり……と。チヨン響は所謂國粹の相撲とだけかと思つてゐたらしい。未だ此の邊にも迂路ついでゐるらしい。外人々々とお客様扱ひにするのが既に物見高い田舎根性である。ザツクバラに富士でも櫻でも見せてやつたらよいではないか。ホテルやガイドの設立訓練は金と時間がかかるといふのなれば、もつと「家庭」を開放して、此の友人を迎へてやつたらどうか。宿引根性になるといふ人自身が宿引をしたといふ下心、見えすいて餘りにも淺薄である。

ともあれ風景國日本の海外進出は動かすべからざる眼前の事實である既に百五十年の昔、日本橋下の水は英京ロンドンに通ずと喝破した開國者の言が、偶々形を改め能動的に躍進せんとするまでのこと、今時鐘國擴張の言をなすのは、チャンバラ劇の夢にすぎない。美術の國日本、平和の國日本と響を並べて、風景國日本も、百尺竿頭更らに一步も二歩も前進突出すべきである。

更らに一方、ツヤパンツリストビニローは時局に鑑みるところあつて、吉田初三郎先生筆の名所鳥瞰圖を世界に示して、その眞價を問はんとせらるゝ計畫あり。我が觀光社の事業は小なりといへ、今や漸く海外進出の機運は澎湃として漲り奇せんとしてゐる。

國寶的存在吉田初三郎先生をして全世界の名所と交通を畫かしむる日も遠き將來ではあるまい。

The "HIROSHIGE" of Present age
初三郎(すしたの)のサインに世界的榮光あれ!! (春秋子)

朝鮮總督府鐵道局のカレンダー

茲に掲載したのは、朝鮮總督府鐵道局發行、昭和五年度のカレンダーであります。恐らくは本年各所で發行されたカレンダー中第一の傑作ともいふべき逸品で、毎年異彩と特色を誇る滿鐵發行のもの、乃至、日本郵船、大阪商船其他發行のものよりも評判がよく、且つ清楚で上品で而も印刷にウツンと凝つたところ、カレンダーにほもつた



北鮮松島

1930 JANUARY 1930							1930 FEBRUARY 1930						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4							1
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	

1930 MARCH 1930							1930 APRIL 1930						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1							1
2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29

CHOSEN GOVERNMENT RAILWAYS

(1)

挿畫は全部我が吉田初三郎先生筆、印刷は木版十數度刷、よく原畫の氣分氣品と、版畫のうまみと特長を、遺憾なく發揮した精巧典雅、比儔なき超特作品……。

(1) はテイーマを御題に戴いた「北鮮松島」の浪靜なる曲浦と巖。

(2) は夏雲捲きあがる世界の奇勝「金剛山」。

(3) は麗顔玉の如き鶴林名物「妓生の圖」。

何れも先生得意の山水と美人畫——先づ以て世界的遊覽地朝鮮を代表する好畫題、何れも朝鮮總督府鐵道局御自慢の作品であります。



初

1930 SEPTEMBER 1930							1930 OCTOBER 1930						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1							1
2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29

1930 NOVEMBER 1930							1930 DECEMBER 1930						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1							1
2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29

CHOSEN GOVERNMENT RAILWAYS

(3)



金剛山

1930 MAY 1930							1930 JUNE 1930						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1							1
2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29

1930 JULY 1930							1930 AUGUST 1930						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1							1
2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29

CHOSEN GOVERNMENT RAILWAYS

(2)

◇本誌定價壹部金五錢

半ヶ年分 五十五錢

觀光春秋

昭和五年二月三十日 印刷發行

發行所 愛知縣丹羽郡城東町藤原字川橋 名古屋市中区大津町日本ライオンビル 光澤社